

一人ひとりの夢・思いを大切に

福祉 しなふくニュース

編集人 しなふくニュース編集委員会 発行人 市原 勝祐
 発行所 品川総合福祉センター 〒140-0003 東京都品川区八潮5-1-1
 電話 03(3790)4839 法人URL <http://www.shinafuku.com> E-mail info@shinafuku.org



目次

- (一) 新年の挨拶…理事長
- (二、三) 新年の挨拶…常務理事・理事・監事
- (四) <新企画>しなふくさんぽ
- (五) 自衛消防の表彰 給食関係…八潮南GH
- (六) 豆知識、カフェ紹介、ボランティア講座案内

らうんじ



理事長
 いちはら かつつけ
 市原 勝祐

明けましておめでとうございませう。
 現在当法人では、社会福祉法の一部を改正する法律が本年

四月から施行されるのに備え、実施に向けた準備を昨年から引き続き進めております。

この十数年、介護保険、障害者自立支援等社会福祉構造改革が進められ、措置から契約制度への転換、福祉サービスへの民間企業の参入、また、高齢者単身世帯の増加等に伴う福祉ニーズの多様化複雑化が顕著となりました。社会福祉法人においても、多くの法人で、国等の指導、監査で、組織管理における理事会の形骸化、財務管理の不正確な会計処理、利用者サービスにおける不適切事例等様々な問題が指摘され、国において数年前から社会福祉法人制度改革が検討され、今度の法改正となったものであります。

制度改革の主なもの、牽制機能として、議決機関の評議員会の必置、会計監査人による財務会計チェック、財務諸表の公表、また地域における公益的な取組等です。今後、法の趣旨に則り業務が運営されることにより、質の高い福祉サービスが提供できるものと考えております。

今年もよろしくお願ひいたします。

初春



あけましておめでとうござ
います。
皆様には、お健やかに新し
い年をお迎えになられたこと
とお慶び申し上げます。
昨年は、福祉施設に係る暗
い事件もありましたが、リオ
デジャネイロ・パラリンピッ
クでは、障害者の方たちの素
晴らしい活躍から多くの感動
を頂きました。それぞれの人
がもてる力を最大限に発揮し
ようとする姿は、本当に美し
いと思ひます。
私たち施設関係者も、ご利
用者の方々が力を発揮して楽
しい生活が送れるよう、法人
の持てる力を最大限発出して
サービスに努める所存です。
本年もご支援をよろしくお
願ひいたします。



おの たかし
小野 孝
常務理事

謹んで新春のお慶びを申し
上げます。
皆様にはつつがなく新年をお
迎への事と存じます。
昨年は障害児・者を抱える
家族にとって大変悲しい事件
がありました。
高齢者や障害者が安心して
暮らしていける施設なくして
は、生きていけないと思ひま
す。それだけにこうした福祉
施設で日夜働いてくださる職
員さん方を支える事が親や家
族の務めでもあるかと存じま
す。
本年も職員の皆さま、ご利
用者、そしてご家族の皆様、
関係者の皆様方の幸多き年で
あります様、お祈り申し上げ、
新年のご挨拶といたします。



しまざき たえこ
島崎 妙子 理事

明けましておめでとうござ
います。
皆様には素晴らしい新年をお
迎えられたこととお慶び申し
上げます。
品川総合福祉センター創立
以来、私達は八潮の地域の中
でお互い助け合い、支え合う
活動に参加してまいりました。
昨年は新理事に就任させて
頂き、その責務の重大さを痛
感しております。至らぬもの
ですが理想の福祉社会の一翼
を担うべく先輩諸兄の教えを
土台として福祉事業の地域貢
献を目指して、微力ながら情
熱を傾けたいと思ひています。
新年が職員さんを始めご利
用者さんとご家族の皆様が
清純で豊かな年でありますよ
うお祈り申し上げます。



みずの やうきち
水野谷 卯吉 理事



すずき としお 鈴木 敏夫 理事

新年明けましておめでとうございます。皆様には素晴らしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

品川総合福祉センターは、「地域における福祉の発展・充実」を使命とし、重点課題として利用者サービスの質的向上を目指し、この度はその基本に立ち返り、一から研修をし直しています。これは、職員の皆様のお力に依拠することとなります。益々のご尽力にご期待申し上げます。

今年も職員の皆様、利用者及びご家族の皆様、地域の皆様にとって、健康で幸多き年になることを願っています。



かとう ひさあき 加藤 久明 理事

新年のお慶びを申し上げます。

昨年中も当法人では、様々な課題が生じ、多くの方々のご協力を得ながら解決してきました。皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

当法人の全事業は対人援助サービス（支援、介護、保育他）で、感情労働です。利用者の皆さんの傍らに寄り添い、息遣いを感じ、幸福追求のお手伝いをします。さらに法人の理念の具現化を進めるための我々職員の資質の向上に向けた人材育成の推進など、事業数、職員数が多くなるにつれ、さらに丁寧に手掛けなくてはならないと感じています。本年も何卒よろしくお願いたします。



やました たかし 山下 隆 監事

明けましておめでとうございます。高齢化社会の進行する中で、社会・地域の住民が求める福祉サービスは、社会福祉事業にとって重要な部分を占めています。

品川総合福祉センターは、長年にわたり、福祉サービスを提供しており、障害者等への各種支援、高齢者の介護、児童の保育等、各施設により活動を行っており、また、社会福祉事業は、「安定的・継続的・発展的経営」と「透明性の確保」がより強く要請されており、福祉サービスの成果は、各施設の職員の理解と協調によるところが大であり、厚く期待をしております。

新しい年がよい年であり、ますようお祈り申し上げます。



かつの たつみ 勝野 巽 監事

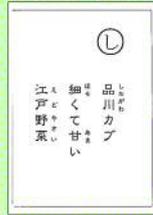
賀正 近年、某法人の現場では、介護ロボットを導入し、改良に向けて試用しています。介護ロボットには、移動・移乗、リハビリ、コミュニケーション、癒し、見守り、記録などの用途別に多種多様なものがあり、職員の労務軽減、事故防止、サービスの向上に役立っています。今後、改良が進み、画期的に効用が高まること期待されます。

また、福祉の分野では、次々と新しいコンセプトや知識・技術が開発されています。これらを土台として、介護予防ほか全領域の福祉の質が格段に向上し、明るい高齢社会が実現するよう切に願っています。年頭に当り皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

☆新企画☆



しなふくさんぽ



「しなふくニュース」に新しい風を！新年 新企画!! 始まりました！！

品川区の興味深い場所・旬な情報を、編集委員が足を運び取材し、シリーズで年1回お届けしていきます。皆様の何かのきっかけになれば嬉しいです。

さて、今回は品川の情報満載な『しながわ歌留多』※から、しなふくの「し」の文字の札「品川カブ細くて甘い江戸野菜」に注目してみました。

皆様、伝統江戸野菜「品川カブ」ご存知ですか？

※(株)スラップショット制作

品川カブ復興の経緯

伝統江戸野菜「品川カブ」復興の発起人・大塚好雄さん(北品川にある八百屋の二代目)。約二十年前、ただ野菜を売るだけでいいのかと疑問を持ち、「品川野菜」の存在を知り江戸野菜の研究を始めたそうです。品川カブの種を苦労して探しあて、育て確かめ、大塚さんの手によって十年前に奇跡的な復活を遂げました。

更に「品川カブ五十年ぶりに復活」と新聞に掲載されたことに刺激を受け、品川カブの栽培と販売をしようと一念発起。栽培する畑のない都会でも、何とか栽培できるところを探し、今では品川区内外各地で栽培できるまでに。「品川っ子」である大塚さんは伝承に力を入れ、毎年十二月には品川カブ品評会も主宰されています。

江戸の伝統野菜「品川カブ」って???

「品川カブ」は、江戸時代に品川宿周辺で栽培されていた長さ二十センチほどの細長い小振りの大根に似た「カブ」です。「東京長カブ」と称され、北区の滝の川周辺でも栽培されていたようですが同じ品種でも「品川カブ」は、幕府へ献上されるほど自慢できる野菜として江戸時代の記録にも残っているそうです。



大塚好雄さん

品川カブを食べてみました

十一月、品川カブの収穫時期に、復興の一環で地域のお店が提供しているいくつかの「品川カブ料理」。「品川カブラーメン」のほか、品川カブの炒め物やおひたしは、どれも歯ごたえのある茎や葉が活きていて、カブの優しい味とほんのり葉の香りもしました。美味しかったです。「品川カブケーキ」やサブレやおまんじゅう、漬物等、まだまだ色々あるようです。来年一月末頃までお楽しみいただけるようです。皆様も北品川にお寄りの際は是非いただいてみてはいかがでしょうか？

品川カブの伝承

約八年前、大塚さんは、品川カブを育てる畑をどこにしようか悩んだ末、近所の小学校にある小さな畑を見つけ、小学校の理解を得て、いまや品川区内の学校、児童センター、幼稚園など二十ヶ所

以上で栽培されています。そこで取組む子供達には、食育活動として、栽培から収穫までの助言や指導のほか、品川カブのお話しも各地でなされています。品川カブの品評会には、昨年は三十二団体が参加されたそうです。

実は、このたび、大塚さんとの一期一会の出会いをきっかけに、当法人の八潮中央保育園でも、品川カブの栽培を始めました。品川カブの土起こしから種まきについてご指導をいただき、園児たちはわくわくした表情で種を触っていました。当法人でも、品川カブの伝承のお手伝いができることは大変光栄であり、品川カブの今後が楽しみでもあります。





自衛消防の組織業務適切功労表彰



平成二十八年度、今年も都立大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場で管内の二十事業所から二十四隊が参加し、自衛消防技術発表会が開催されました。各隊とも訓練で培った活動技術とチームワークを遺憾なく披露し、会場には気合いに満ちた力強い掛け声が響き渡りました。品川総合福祉センターからも、「一号女子隊」にて参加をし、八潮南グループホーム、サンかもめ、福祉工場しながわからそれぞれ一名計三名が練習を繰り返し行い、当日の本番に挑みました。過去には、最優秀賞や優秀賞を受賞した事もあります。が、賞に関係なく、毎年欠かさず参加す

るその防災意識の高さに対して、今回、「自衛消防の組織業務適切功労について」表彰され、火災予防業務功労者表彰式に招待を受け、参加する事となりました。

平成二十六年には、防火管理者の火災予防業務功労者への表彰もして頂きました。今後も、自衛消防技術発表会への参加は勿論の事、日頃の火災予防だけではなく、様々な災害予防への取り組みを継続する事が、とても大切だと考えます。



職員3名の「1号女子隊」、お疲れ様でした！！

しなふくの給食

八潮南グループホーム

「彩・楽・健」

グループホーム八潮南の食事は、毎日献立を決める事から始まりません。決まった献立表はありません。利用者や職員と一緒に考え、買い物に行き、食材を選び、調理をします。



丁寧な盛り付けで 食欲も増します

その際は、良い食材を選ぶ人、調理をする人、後片付けをする人と、それぞれの方の得意な事を分担して助け合っています。

時に出勤を取ったり近所で外食することもあります。そんな時はいつも食がすすみ、皆様の笑顔も増える様子です。

家で作る食事と同じです。で、正確にカロリーを計算している訳ではなく、また、お惣菜を利用することもありま

す。ただ、味付けや栄養バランス、量を考えたり、主治医と連携した健康管理には気を配るようにしています。

利用者の皆さんは食事をとっても楽しみにしていらつしやいます。また利用者、職員ともそれぞれに味付けや調理法があり、それを皆で学んだり味わうことも楽しみの一つなのかなと感じることがあります。これからも「食の楽しみ」を大切に、利用者と職員、ともに生活をしていけたらと思っています。



外食で好きなものを頂きます



お正月 いろいろ

皆さんはお正月どのような過ごし方をされますか？日本ではお正月におせち料理を食べたり、お屠蘇を飲んだり、初詣に行ったりします。日本以外の国ではどんなお正月を過ごしているのでしょうか？

欧州のエストニアでは、一日に七回食事をする習慣があります。これは新年にこの一年豊富な食料を確保できるようにという願いが込められ、七回の食事をしたら、その人は次の年に七人分の力をもつことができると言われています。またデンマー



豆知識

クのお正月の過ごし方は、「お皿を隣の家のドアに投げつける」という

ものです。お皿を投げつけられた家は幸せになると信じられています。



じられていきます。たくさんのお皿やカップなどの食器を投げつけられた家庭ほど、ラッキーな家庭だとされています。お正月に家の玄関にたくさん割れた食器がある家庭は、それだけ多くの誠実な友人をもっているという証だと捉えられるそうです。二つの国以外でも、バケツの水をかける風習やカラフルなパンツを履くなど様々な伝統があります。皆様も今年のお正月は、古くからの日本の伝統的なお正月という文化を身近に感じながら過ごしてみたいかがでしょうか。

カフェ紹介

しなふくの「サンデーマスター」



月に一回の日曜日、しなふく本部のロビーは大勢の人で賑わいます。

サンデーマスターと呼ばれるのは、ボランティアの佐藤和彦さん。もう七年以上、日曜お休みしている喫茶店で、サンデーマスターとして憩いの場を提供して下さっています。

日曜日、身近で気楽に楽しめる喫茶店は、大変好評で、顔なじみの利用者が、それぞれいつものメニューを注文し、言葉の不自由なご利用者にもあ、うんの呼吸で提供してくれます。そんな心地いいカフェを開いてくださるマスターに心から感謝しています。



優しく明るいマスターは、センター皆の人気者！

ボランティア講座のお知らせ

「傾聴ボランティア講座」

施設の利用者の心の声を聴くために、傾聴の基本的な知識技術や体験談を学び、演習や事例検討を行います。ボランティアを始めた方、ボランティアを始めてみたい方、ステップアップとして学びたい方、お申込下さい。日時：平成二十九年一月三十一日（火）～二月二日（木）三日間 十三時～十六時

場所：品川総合福祉センター 定員：三十名（先着順） 申込：電話で一月十六日（月）までに申し込み（地域福祉課） ○三三三七九〇一四八三九

あ・と・が・き

今年の干支は酉（鶏）ですが、縁起物として元旦に鳴く鳥は、昔はカラスが尊ばれていたそうです。トリ違いだったなんて不思議ですね。

新企画の四面はいかがですか？感想お待ちしております。（後藤）